

ニコライ・アレクセーエフ [指揮者/副芸術監督]

ロシア人民芸術家であり、サンクトペテルブルグ・フィルハーモニー協会の副芸術監督を務めるニコライ・アレクセーエフは、グリーンカ記念レニングラード合唱学校およびレニングラード音楽院を卒業した。同音楽院では、A. ミハイロフに合唱指揮を、M. ヤンソンスにオペラと管弦楽の指揮を学んだ。アレクセーエフは創造性に富む活動を極めて活発に行い、ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮者コンクール（1982年、西ベルリン）をはじめ、数々のコンクールで入賞。ザグレブ・フィルハーモニー管弦楽団の首席指揮者を務めた他、モスクワ・フィルハーモニー交響楽団、ボリショイ交響楽団、ロシア・ナショナル管弦楽団などを指揮。また、ロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団、ロッテルダム・フィルハーモニー管弦楽団、ドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団、シュトゥットガルト・フィルハーモニー管弦楽団、コペンハーゲン・フィルハーモニー管弦楽団、ベルリン交響楽団、ボルティモア交響楽団、ロイヤル・リヴァプール・フィルハーモニー管弦楽団、BBCスコティッシュ交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団など、外国のオーケストラとも共演している。

2001年から2010年までは、バルト三国の中で最も歴史の古いオーケストラ、エストニア国立交響楽団の首席指揮者を務めた。この功績により、エストニア共和国から国家文化賞を授与された。現在、アレクセーエフの活動範囲はヨーロッパ（ドイツ、フランス、イタリア、イギリス、ベルギー、オランダ）、ラテン・アメリカ、日本、アメリカに及ぶ。

アレクセーエフは、2000年よりサンクトペテルブルグ・フィルハーモニー交響楽団の指揮者を務めている。レパートリーには、ウィーン古典派、チャイコフスキー、ショスタコーヴィチなどが含まれ、ブラームスの交響曲全曲、ストラヴィンスキーとプロコフィエフの多くの作品、マーラーの交響曲第8番「千人の交響曲」、シェーンベルクの「グレの歌」、メシヤンの「トゥランガリラ交響曲」などを同楽団と演奏した。さらに、アレクセーエフは、定期的に新しい作品を聴衆に紹介している。世界初演としては、ティシチェンコの「ダンテ交響曲」第2番と第5番、スロニムスキーの交響曲第13番などがあり、ロシア初演としては、ポリソヴァ＝オラスの交響曲第1番「天国の勝利」と「素晴らしい苦悩」、A. ヴァレンベルクのピアノとオーケストラのための幻想曲「ロミオとジュリエット」（ラフマニノフの交響曲第1番を元に作曲した作品）、サンクトペテルブルグ初演としては、R. シCHEDリンのヴァイオリン協奏曲「コンチェルト・カンタービレ」、パガニーニのヴァイオリン協奏曲第5番がある。